

コロナ禍と若者支援

いま若者と家族に何が起きているのか

全国子ども福祉センター
理事長 荒井和樹

1



出典：声かけて子どもを危険から守れ元不登校・引きこもり経験者も「Nスタ」TBSテレビ (2016年3月30日)



出典：居場所求める子どもたち大人はどう向き合う？「ニュースten」読売テレビ (2016年12月23日)

荒井和樹 (元児童福祉施設職員)
公的福祉を利用しない子ども・若者に声をかけ、ともにアウトリーチ活動を初めて10年。
アウトリーチの理念や方法・スキルをまとめ、『子ども・若者が創るアウトリーチ-支援を前提としない新しい子ども家庭福祉』を刊行。
愛知県子育て支援員研修講師、日本福祉大学・同朋大学、福山女学園大学で非常勤講師を兼任。



Amazon 2019年10月 新書福祉 1位
2021年2月 重版決定!!

**犯罪抑止と権利保障を目的として
メディア書籍を通じ世論に働きかける**
新聞掲載76回・テレビ出演29回 (～2020年)

2



3

Series of horizontal lines for writing.

これまでの取り組み、活動目的

学校や施設、相談所等の援助機関につながりを持たない、持とうとしない子ども・若者に対する広義のアウトリーチ活動、仲間づくりを実施。子どもたちが声かけ活動、課題解決の主体となる。目的は課題解決ではなく、エンパワメントと解放に置いている。

解放

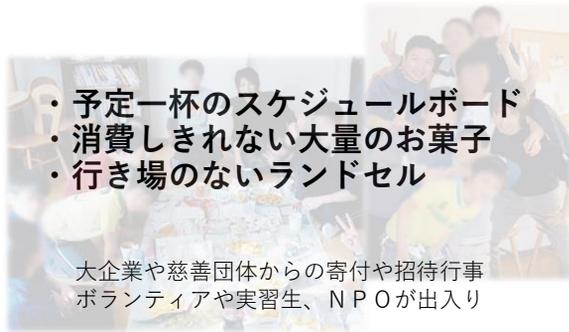
束縛（力を発揮できない状態）から自由にする

エンパワメント

すでに持っている力を引き出す

Copyright (C) 特定非営利活動法人全国こども福祉センター 荒井和樹 All Rights Reserved.

4



- ・ 予定一杯のスケジュールボード
- ・ 消費しきれない大量のお菓子
- ・ 行き場のないランドセル

大企業や慈善団体からの寄付や招待行事
ボランティアや実習生、NPOが出入り

施設の内外で支援の重複に直面する

5



6

声かけ・調査 子どもたちとの 出会い

2005年から個人で声かけ・フィールドワーク開始
繁華街や祭礼行事、サークル、ホストクラブなど



一緒に活動 組織・法人化 約10年経過

2012年、声かけて出会った子どもたちと全国こども福祉センターを設立
トップダウン運営は主体性を削いだことから、子どもたちに運営管理を一任



Copyright (C) 特定非営利活動法人全国こども福祉センター 荒井和樹 All Rights Reserved.

7

荒井和樹 @ffc231

2020年 コロナ禍の活動（全国こども福祉センター）
休校・自粛要請で、移動の自由、集まる自由が失われる
従来活動に加え、4月からオンライン活動を毎週実施

3月 OBOG、大学生メンバーが活動中止を促す
4月上旬 対面からオンラインミーティングへ変更
相談専用サイトを開設、Twitter質問箱を設置
中学生の「いまこそ、アウトリーチ活動が必要」という
意見からオンラインカフェ&バー開始（サポートあり）

4月下旬 中高生によるオンライン活動開始
※2020年4月～8月（計101回実施）
オンライン活動で1,667名が参加

Copyright (C) 特定非営利活動法人全国こども福祉センター 荒井和樹 All Rights Reserved.

8

荒井和樹 @ffc231

（公的な機関は）ハードルが高いかな

国や自治体は児童相談所などに
相談窓口を設けているが、
Aさんは「これらに相談しようとは
一度も思わなかった」と話す。

引用：「犯罪に利用されるSNS 家出少女の心理とは...」
MBSテレビ 毎日放送 ミント！真相R（2020年3月19日放送）

9

f t 荒井和樹 @ffc231

Bさん

小学校から暴力を受けていた。
先生に相談したら、親に話され、より暴力が酷くなった。高校から家出を繰り返した。様々な出会いがあった。いい人も悪い人もいた。家よりマシだと思ふ。会えば、3万円くれる人もいた。
繁華街は話しかけてくれるから、退屈しなくて済んだ。出会い系も約束を必ず守ってくれる人ばかりだった。待ち合わせしてたら、きぐるみの人に声をかけられた。
...電話相談？使わなかったよ。...児童相談所？
友達が児童相談所利用の経験があって、携帯禁止とか、「最悪」とか聞いていたから...行かないよ。

Copyright (C) 特定非営利活動法人全国こども福祉センター 荒井和樹 All Rights Reserved.

10

f t 荒井和樹 @ffc231

子ども・若者が 助けを求められない理由

(※支援団体43団体の自由記述から)

1位	(41)
2位	(28)
3位	(27)

出典：『トヨタ財団2017年度国内助成プログラム「声なき声」に支援を届ける—新たなアウトリーチ展開のための調査—調査報告書』NPO法人OVAより

Copyright (C) 特定非営利活動法人全国こども福祉センター 荒井和樹 All Rights Reserved.

11



キャッチコピーや活動案内もメンバーが考え、各自SNSで発信、活用します【全員が発信者】

鍵の管理はもちろん、ミーティングも中高生が開催します。

- ・中学生から声かけ&活動運営に参画
- ・大人は良き友（それ以上でもそれ以下でもない）
- ・互いに学び、支え合う（コロナ禍でも変わらない）

Copyright (C) 特定非営利活動法人全国こども福祉センター 荒井和樹 All Rights Reserved.

12

Cさん 15歳のとき、名古屋駅で声をかけられ、活動に参加するようになった。

小学校から不登校で中学校は一回も行ってない。

「支援機関？」一度利用したよ。

遠いし、面倒。二度と行かないかな。

姉はキャバ嬢。母はご飯作らないよ。

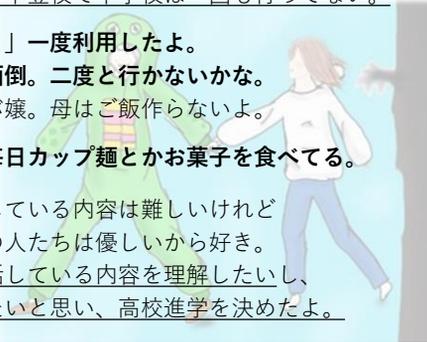
「食事？」毎日カップ麺とかお菓子を食べてる。

周りの話している内容は難しいけれど

着ぐるみの人たちは優しいから好き。

みんなが話している内容を理解したいし、

役に立ちたいと思い、高校進学を決めたよ。



13

子ども食堂：「食事を提供される経験」
全国子ども福祉センター：
「仲間の必要なものは何か考え、フードバンクを探し、食材を調達・提供。感謝される経験」



日常的に課題解決にかかわる。フードバンクへのアポ取り、メールを作成、送信。

問題から遠ざける 何もさせない
→ 知る・考える・自分で決める機会を奪う

Copyright (C) 特定非営利活動法人全国子ども福祉センター 荒井和樹 All Rights Reserved.

14

- 1 声かけ・調査（フィールドワーク）
- 2 仲間づくり
- 3 問題解決に関わる



抑圧・専門家支配からの解放
自分の生き方を自分で選択できる

Copyright (C) 特定非営利活動法人全国子ども福祉センター 荒井和樹 All Rights Reserved.

15

写真で見る

全国こども福祉センターの活動



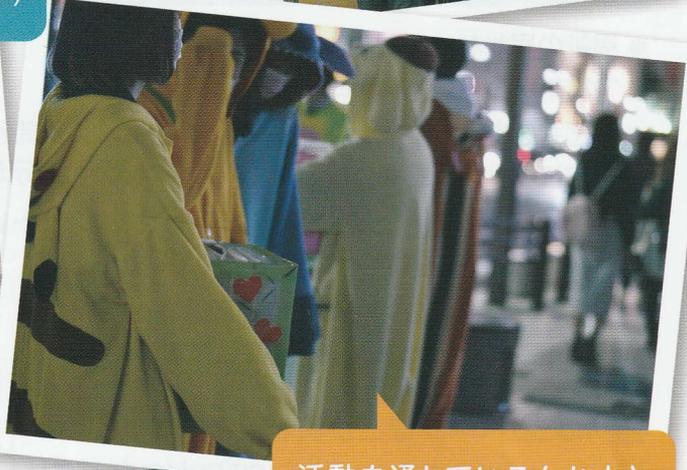
スタートは面接室ではないことに気づいた

伊藤ひかり(活動歴5年)



自分と同じ家庭環境や境遇の人間が他にもいるとは思わなかった

加納慎恭(活動歴3年)



活動を通していろんな人と関わることで、自分の問題と向き合おうと思った

晃弥(10代仮名)



私も中学生の時にこういう人たちに会いたかった

黒川美津紀(活動歴4年)



大学生と話している中で、もっと勉強したいと思ったから高校進学を決めた

マヤ(10代仮名)



自分の問題意識についていろんな視点から考えることができたようになった

呉岡大地(活動歴1年)



全国こども福祉センターについて、詳しくはホームページをご覧ください。



保育・福祉関係者はもちろん、
教育関係者にもおススメしたい1冊!!

支援を前提としない
新しい子ども家庭福祉

子ども・若者が創る アウトリーチ

主な内容 アウトリーチとは「手をのばす」という意味です。

- 福祉の届かない子ども・若者にアウトリーチし、つながりをつくる方法を紹介しています。
- 子どもを支援対象者としてとらえるのではなく、問題を発見し、解決に取り組む主体として認めることの重要性を示唆しています。
- 全国子ども福祉センターが長年実践してきたアウトリーチを体系化し、方法論やスキルをまとめています。
- 現在の子ども家庭福祉の役割と課題をとりあげ、課題解決に向けた提言を行っています。

最初の30ページほどが試し読みできます。

<https://community-publishing.net/outreach/>



全国子ども福祉センターとは

全国子ども福祉センターは、名古屋駅前の繁華街やSNSなどで、子ども・若者に対して声をかけたり、スポーツや社会活動に誘って、つながり(人間関係)をつくる活動をしています。際立った特徴は、団体のメンバーである子ども・若者自身が、子ども・若者に対して声をかけている点です。本書では、この新しいスタイルの児童福祉(子ども家庭福祉)の理念や活動内容を紹介しています。(裏面参照)



支援を前提としない
新しい子ども家庭福祉

子ども・若者が創る アウトリーチ



全国子ども福祉センター
理事長
保育士、社会福祉士
荒井 和樹

保育・福祉関係者はもちろん、
教育関係者にもおススメしたい1冊!!

福祉からこぼれる子どもたちと、どうかかわればいいのか？
本書は様々な角度から、そのヒントを提示しています。
重要なことは、子どもを支援対象者として見るのではなく、
問題を発見し、解決に取り組む主体として認めることです。

アイエス・エヌ株式会社

- 著者 / 荒井 和樹
- 価格 / 本体 1,800円 + 税
- 判型 / A5判
- 頁数 / 232ページ
- ISBN / 978-4-909363-06-0
- 発行 / アイエス・エヌ株式会社
コミュニティ・パブリッシング事業部

著者 荒井 和樹 (あらい かずき)

- NPO 法人全国子ども福祉センター理事長
- 保育士 ● 社会福祉士

元児童養護施設職員。日本福祉大学大学院社会学部社会学研究科修士課程修了。施設職員として在職中、支援拒否など、福祉が届かない子ども・若者と出会う。退職後は繁華街やSNSでフィールドワークを実施。子どもたちを支援や保護の受け手として迎えるのではなく、仲間として迎え、本人が実践できる環境を提供する。2012年に全国子ども福祉センターを設立。現在は同法人理事長、日本福祉大学非常勤講師、同朋大学実習担当教員などを務めている。

ご購入方法

1 公式サイトでのご購入



お支払い方法

- ・ 郵便局での振込(後払い) ※送料、振込手数料無料です。
- ・ コンビニ決済、銀行振込など ※送料無料です。手数料が発生する場合はお客様のご負担となります。
- ・ クレジットカード決済 ※送料、振込手数料無料です。

ご購入方法

2

全国の書店、
Amazonなどでのご購入

必ず在庫があるとは限りませんので、
事前にお調べください。

お問い合わせ

コミュニティ・パブリッシング

(運営会社) アイエス・エヌ株式会社

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 3-1-15 メビウス御堂筋本町 BLD.8F
TEL 06-4704-5443 MAIL commupub@isn-haru.jp